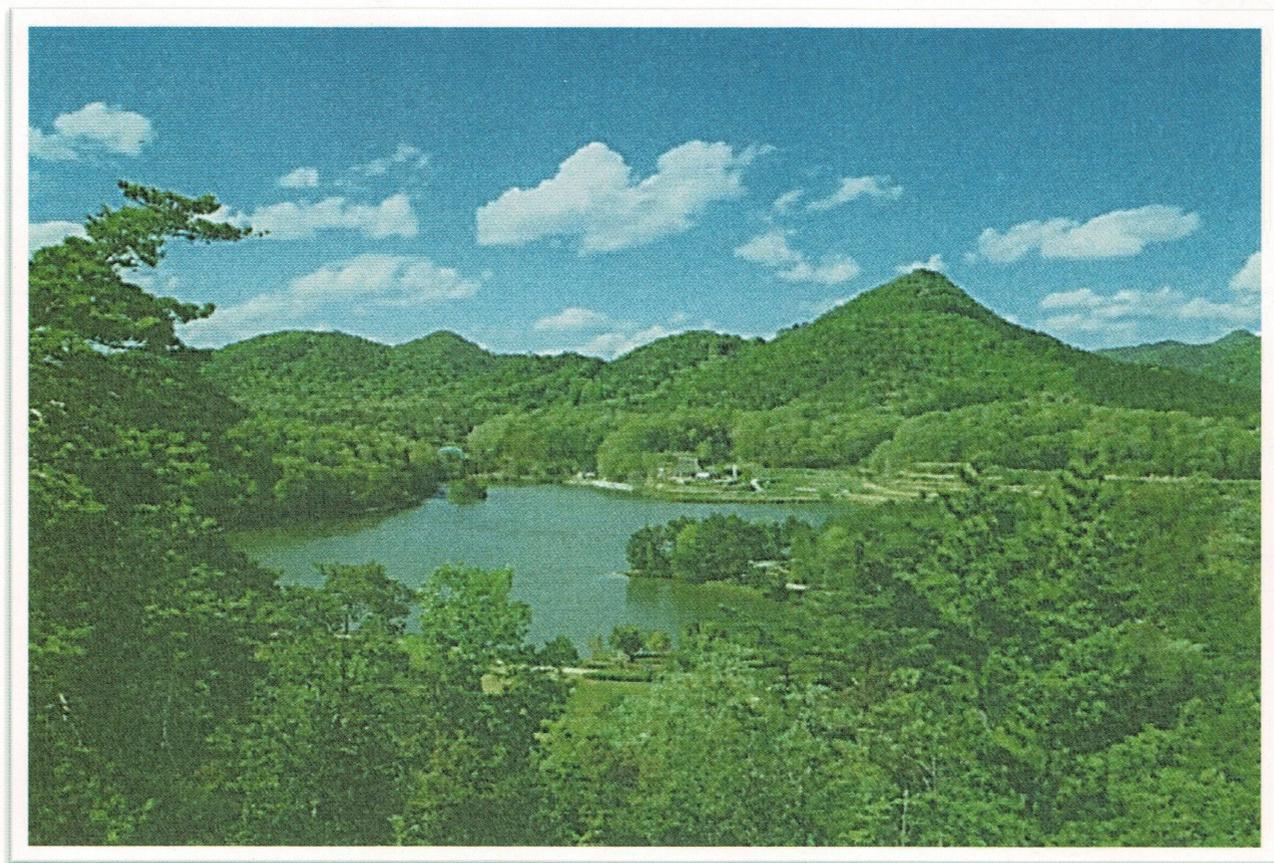


志手原校区地域づくり計画

—住んでよかったと思える温もりのある地域をめざして—



志手原校区 地域づくり協議会

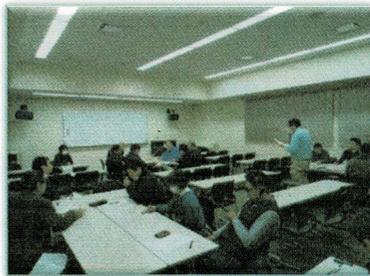
目次

○ 計画策定にあたって 3
○ 地域について 4
・地域の概要（特性） 4
・地域の課題 5
○ 志手原校区地域づくり計画について 7
・計画の名称 7
・地域の将来像 7
・活動方針と実施事業 7
○ 参考資料 13

● 序文

志手原校区地域づくり協議会は、区長会をはじめとする9つの地域活動団体等と住民で構成する協議会として、平成30年1月30日設立されました。

地域づくり協議会（まちづくり協議会）とは、少子高齢化人口減少時代を迎え、誰もが安心して暮らせる元気な地域を創るため、様々な地域団体や住民が連携し支え合う住民主体の組織です。



志手原校区は、旧農村地域と民間開発による住宅団地が混在する言わば三田市の縮図のような地域で、三田市内でも最も高齢化が進んでいます。一方少子化も急激に進んでおり、志手原小学校では一部複式学級が発生し、小学校や中学校の統合問題が大きな地域課題となっています。

また、人口も急激に減少し、地域を支える担い手不足から自治区の運営や各団体の活動にも支障が出始めている状況です。

こうした中で、いつまでも元気で誰もが安心して暮らせる地域を創るため、時代変化に対応した地域運営の在り方や具体的な取組についてまとめる「志手原校区地域づくり計画」の策定に取り組んでまいりました。

計画の策定に当たっては、地域を支える各団体との意見交換会や住民アンケートを実施、多くの住民のみなさんの貴重な意見を基に具体的な計画をまとめるための「地域づくり計画策定委員会」を設置し、分科会や小規模座談会で更に議論を深めながら将来計画としてまとめました。

地域づくり計画策定委員をはじめ、小規模座談会等計画づくりに参画いただきました多くの皆様のご協力に心より感謝申し上げますと共に、計画実現に向けて一層のご支援を願っています。

今後は、時代の変化に柔軟に対応するため、必要に応じ計画を見直しながら多くの住民の知恵と行動によって、誰もが住んでよかったと思える元気な志手原校区をめざしてまいります。

令和2年7月

志手原校区 地域づくり協議会
会長 西田 孝夫

● 地域の概要（特性）

志手原校区は、三田市の中心市街地から北へ約4キロメートルに位置し、三輪地区の北部地域として、長らく米作を中心とした集落が点在する農村地域でした。

昭和40年代に民間による住宅団地の開発によって、新たに出来た3つの自治区を含め9つの自治区で形成され、新旧住民が混在する地域として現在に至っています。

校区の人口は約2,100人（900世帯）、高齢化率は40.2%（令和2年1月末現在）と市内でも最も高齢化が進んでいます。

また、志手原小学校児童数は56名（一部複式）と年々減少し、三田市では市内の小中学校の統合問題が協議されています。

こうした少子高齢化に伴い、当地域では過去10年間に400人以上地域人口が減少しています。

地域の交通環境は、公共交通として北部3方面に通ずる路線バスが当地域の幹線道路を通過していることから、比較的便利ですが地区によっては本数も少なく、またバス停までの距離が長く高齢者にとっては利用しにくい現状です。

地域の主な公共施設は、県立有馬富士公園、市立有馬富士共生センター、クリーンセンター、ガラス工芸館、三田市消防分署など多くの施設があります。また、三田八景にも選ばれた有馬富士、西国33か所番外札所としてご詠歌にも詠まれ多くの参拝者が訪れる歴史深い花山院、遠くからもよく見え信仰の山として古くから賑わいをみせ、近年では登山や景勝の山として多くの人に親しまれている羽束山など、神社旧跡や市内を代表する景勝地が多くあります。



また、志手原八王子神社の田楽踊り、尼寺大歳神社のハナフリ、香下の神楽や六日堂など古くから守られてきた貴重な郷土文化が受け継がれています。

主な産業は、米作や野菜栽培などの農業が中心ですが特徴的な産品もなく、高齢化や担い手不足から休耕田が増えています。また、観光面では花山院や羽束山のほか、シイタケ観光園や温泉施設などがあります。

このように志手原校区は、市街化調整区域で開発が制限されてきたこともあって、豊かな自然が残り代々受け継がれてきた農村文化、神社旧跡や景勝地など、潜在資源の豊かな地域でもあります。



志手原八王子神社田楽おどり

香下神楽

尼寺大歳神社ハナフリ

● 地域の課題

◇ 超高齢化時代における暮らし

前述のとおり当地域は、急激に高齢化が進み高齢者の一人暮らしや2人世帯が増加する中で、日々の暮らしに不自由を感じる方が増えています。

住民アンケートでは、日頃の生活での困りごとの最も多いのは買物や通院といった外出に関する事、次は庭の手入れや家族の介護など高齢化に伴う事が大半を占めており、高齢化社会における住民同士の支え合いや生活支援の仕組づくりが必要です。

また、若い世代では子育て支援や若者の居場所（交流の場）が少ないといった意見も多く、全ての世代が安心して暮らせる地域づくりが求められています。

◇ 少子化による担い手不足や地域コミュニティの希薄化

少子化が進む中、若者は故郷を離れ地域を支える活動家が減少し、集落においては区の役員のなり手が少ない、祭りや古くから続いている行事等が困難、また地域を支えている団体活動も担い手不足で維持していくことが困難といったことが生じています。

こうした状況の中で、これから先地域を支える活動家をつないでいくには、多くの住民が参加したくなるような行事や催しの工夫と共に、若者が地域に残りたいと思えるような魅力ある地域づくりを進め、この地域に住んでみたいと思う若者が増えるような定住支援など地域ぐるみの取り組みが必要です。

一方、様々な地域行事等に参加しているメンバーは役員か特定の住民で、住民同志のつながりや支え合いの意識が薄らぎコミュニティの固定化が進んでいます。

いつまでも元気な地域を維持するには一部の担い手ではできません。住民一人一人が我が故郷に想いを寄せ地域ぐるみのまちづくりが求められています。

◇ 元気な地域づくり

志手原校区は、立地的には中心市街地に近接し豊かな自然環境や歴史深い地域でありながら人口は年々減少傾向にあります。

多くの若者が地域を去り過疎化が進むのは、都市への人口集中といった日本の社会現象でもあります。が、私たちの地域に魅力が少ないことも大きな原因と考えられます。

地域が有する豊かな自然と優れた歴史文化など潜在的な地域財産や農業、これらを生かしていくことで地域の魅力を高めていくことがこれからの課題であります。

特に地域の基幹産業である農業も担い手不足から休耕田も増えつつあり、個人から集団管理へ地域挙げての保田の仕組みと共に、特産品開発など地域の魅力を高めることにより地域農業の維持と豊かな農地の保全を進めなければなりません。

長期的には、こうした地域の魅力を高める活動と合わせ、平成 27 年 10 月に施行された市街化調整区域の一部規制緩和により、区域内人口の定着など地域活力の維持に取りくみながら人口減少に歯止めをかけなければなりません。

(志手原校区の地区別人口：令和 2 年 1 月末現在)

地区名	世帯数	人口	65 歳以上人口	高齢化率(%)
虫尾	137	315	112	35.6
尼寺	75	165	58	35.2
志手原	270	660	219	33.2
成谷	21	48	26	54.2
香下	61	146	66	45.2
砥石川	21	58	20	34.5
上野台	138	311	151	48.6
桜ヶ丘	70	142	69	48.6
有馬富士	122	262	125	47.7
合計	915	2,107	846	40.2

(志手原校区の人口推移)

年	人口	世帯数	年少人口 (14 歳以下)	高齢者人口 (65 歳以上)	高齢化率 (%)
令和 2 年 1 月	2,107	915	137	846	40.2
平成 30 年	2,162	916	149	836	38.7
平成 25 年	2,394	951	206	771	32.2
平成 20 年	2,542	931	297	635	25.0

※参考：三田市の高齢化率 23.7% 日本の高齢化率 27.7% (何れも平成 30 年 1 月)

志手原校区地域づくり計画について

● 計画の名称

「志手原校区地域づくり計画」

本計画は、少子高齢化人口減少時代を迎え、いつまでも元気で、誰もが安心して暮らせる志手原校区をめざして、地域の将来像を明らかにすると共に概ね向こう5か年（令和2年度～令和6年度）の主な取り組み内容を示したものです。

● 地域の将来像

◆ 基本目標

—— 住んで良かったと思える温もりのある地域づくり ——

◆ 取り組み姿勢

志手原校区が有する豊かな資源や人材など優れた潜在力を生かし、地域住民の参画と協働で元気な地域づくりを進めます。

● 活動方針と実施事業

§ 1. 誰もが安心して暮らせる温かい地域

1. 高齢者や障害者の方にやさしい暮らし支援

①一人暮らしや生活弱者の暮らしサポート

- ・小地域サロンを活用した安否確認や引きこもり防止に取り組む。（令和2年度～）
- ・生活支援ボランティアグループ「すけっと志手原」を核とした生活支援グループを立ち上げ、ゴミ出しや外出などの生活支援を充実する。（令和2年度～）
- ・生活支援グループのボランティア確保に向けて、体験学習や講座の開催などにより次世代の若い世代に関心をもってもらう取り組みを検討する。（令和1年度～）

②高齢者や障害者にやさしい地域交通の研究

- ・買物や通院など高齢者や障害者にやさしい地域交通について、三田市地域交通検討会の動きを見極めながら当地域にあった地域交通の在り方を研究する。（令和3年度～）

③誰もが気楽に相談できる拠点づくり

- ・地域づくり活動拠点施設を活用した相談窓口の開設。（高齢者支援センターなど公的相談機関と連携した介護や子育て相談）（令和3年度～）

2. 高齢者の健康づくり

①いつまでも元気でいきいきとした在宅生活支援

- ・小地域サロンを活用した健康教室の開催や健康維持を目的とした活動支援。（令和2年度～）

②「いきいき百歳体操」の普及（令和2年度～）

3. 子育て世代を支える地域活動の推進（地域活動拠点施設の活用）

- ①低学年児童を対象とした放課後子ども教室の実施並びに地域食堂の試行（令和4年度～）
- ②子育て世代の支援と、児童と高齢者の交流による学びの場を提供するため、夏休みに子供のつどい日を試行する。（令和4年度～）

4. 安全で安心して暮らせる防災・防犯等への備え

①防災意識を高める地域防災訓練の実施

- ・校区防災訓練の実施。（年1回）（令和2年度～）
（高齢者や障害者など弱者を対象とした避難誘導や避難所運営訓練など）
- ・地区単位の自主防災組織の組織化の推進と防災意識向上に向けた研修等の啓発活動の実施。
（令和2年度～）

②空き家の調査と定期的な見守り体制の検討（令和3年度～）

③志手原校区防災マップの作成（危険個所や避難ルートなど）（令和2年度～）

④地域内の主要道路の安全確保に向け、県道後川上線（虫尾地内）や成谷口交差点の改修を促進する。

§ 2. 住民同士で創る元気な地域

1. 住民同士でつなぐ機会づくり

①仮称「志手原ふるさと納涼祭り」の開催

- ・兄弟っ子づくり納涼大会を拡充し、子供からお年寄りまで多世代が楽しく参加できる地域の基幹的な祭りとして開催する。（令和3年度～）
- ・開催に当たっては、若者や女性の積極的な参加による仮称「ふるさと納涼祭り実行委員会」を組織し企画運営する。また校区内事業所等にも呼びかけ地域挙げての祭りとする。（令和2年度～）

②楽しく誰もが参加できる地域活動メニューのまとめ

- ・伝統ある郷土の祭りや行事を継承するため「地域伝統行事マップ」を作成し地域ぐるみで継承するための仕組みを検討する。（※ふるさと志手原の再発見の取組と調整要）（令和3年度～）
- ・趣味の活動など気楽に参加できるプログラムを開発し、住民同士が身近に学び交流できる機会を提供する。（令和3年～）

③地域情報の共有

- ・仮称「かわら版志手原」の発刊やネット配信を通じ、地域の出来事や団体の活動紹介など地域情報の共有に向けた取り組みを進める。（令和2年度～）
- ・協議会事務局内に地域住民の公募による「広報委員会」を設置する。（令和2年度～）

2. 地域を支える担い手づくり

①若者のふるさと意識を高める機会づくり

- ・ふるさとに興味を持ち地域を愛する子供たちを育てるため、志手原小学校と地域を結ぶ既存の交流事業を地域ぐるみで継承する。（令和2年度～）
- ・地域の伝統行事や志手原小学校地域交流事業等に、志手原小学校OBや転出した若者が参加できる仕組みや交流イベントを検討すると共に、仮称「志手原ふるさと納涼祭り」が若者の地域参加モデル行事になるよう工夫する。（令和3年度～）

②活動家の掘り起こしと育成

- ・住民の豊かな経験や技術を様々な地域活動に生かしていくため「志手原人材バンク」を立ち上げる。人材バンクは公募による登録制とし、地域活動や趣味の会に生かしていくしくみを検討する。
(令和2年度～仕組みの検討 令和3年度～人材バンクの立ち上げ)

③地域ボランティア活動の推進

- ・時間に縛られない多様な参加方法や、働きとボランティアを合わせた有償ボランティア活動など、多くの住民が地域活動に参加しやすいしくみを研究する。(令和2年度～)
- ・「生活支援」「地域活動支援」「地域おこし協力」の3つの活動支援グループの立ち上げに向けたしくみを検討するため「担い手づくり検討会」を設置する。
(令和2年度～検討会の設置 令和3年度～)

3. 誰もが気軽に集まれる活動拠点づくり

①JA兵庫六甲志手原出張所跡を活用した拠点づくり

- ・協議会事務局の移転、ボランティア活動や地域づくり活動の拠点施設として様々な集まりや情報発信の場とする。(令和2年度～)
- ・誰もが気軽に立ち寄れる交流クラブ(仮称)志手原つながりカフェの開設や趣味の会の開催などを通じ住民同士の交流を深める。(令和2年度～)
- ・定期的な生活や営農相談の実施。(令和3年度～)
- ・地場野菜の朝市の開設。(令和3年度～)

§3. 魅力を生かした自慢できる地域

1. 農業特産物の開発と地域農業の振興

①しではら農業特産物づくり

- ・専業農家や農業関係者及びJAによる「地域農業を考える会」を立ち上げ、農業特産物の研究開発と遊休農地の活用による環境保全策を研究する。(令和2年度～)

②地域農業を地域ぐるみで守る仕組みづくり

- ・植え付けや収穫イベントを通じ将来農業に関わる住民の輪を広げる。(令和3年度～)
- ・地域住民が農業の戦力となるような組織の立ち上げ。(地域おこし協力グループ)(令和3年度～)
- ・集落単位の集落営農組織に加え、小規模集落を含む校区全体の農業の安定化と効率化を進める。
(令和4年度～)
- ・空き家を活用した新規就農者の受入れを進めるための方策を検討する。(令和4年度～)

③地場野菜の販売促進

- ・有馬富士公園や協議会拠点施設を活用した産直販売を進めると共に、地域住民をこれらの販売スタッフにお願いし農業に触れ合う機会をつくる。(令和3年度～)

④上記3項目を推進するための組織の法人化を検討する。(令和2年度～)

2. 「虹プロジェクト～アサギマダラのふるさとづくり～」の支援

①アサギマダラが好むフジバカマの栽培

- ・上野台中学校の「虹プロジェクト」の取り組みを支援するため、遊休農地にフジバカマの栽培を広める。併せて遊休農地の保全と景観形成に努める。(令和2年度～)
- ・栽培したフジバカマの活用方法を検討する。(令和3年度～)

②アサギマダラを通じた地域の架け橋づくり

- ・市内小中学校にフジバカマ株を配布し子供たちの交流支援を行う。(令和3年度～)
- ・日本各地のアサギマダラ飛来地調査を進め、子供たちが中心となって「アサギマダラサミット」の開催を当地域で行う。(令和5年度以降)

3. ふるさと志手原の再発見

①神社 仏閣 伝統文化 民話の調査とマップの作成

- ・子供たちにわかりやすい教材づくり(民話等)(令和3年度～)
- ・志手原いいところ再発見マップを作成し志手原の魅力を発信する。(令和3年度～)

§ 4. みんなで進める活動のしくみ

少子高齢化・人口減少社会を迎え、誰もが安心して暮らせる元気な志手原校区を創るため、現行の地域運営体制を見直し新たな時代に対応できる持続可能な地域運営をめざします。

運営体制の見直しに当たっては、地域づくり協議会構成団体や住民アンケートにおける多くの住民の意見を基に、事業や催しをはじめ団体の整理統合を行い地域運営の効率化とスリム化を進めます。

新たな地域運営組織は、地域の中心的役割を担う地区長と共に志手原校区地域づくり協議会が住民と協働して地域運営全般を行います。

本計画の推進を図るため、志手原校区地域づくり協議会に活動団体や住民で組織する運営委員会及び事業部会を設置します。

1. 簡素で効率的な地域運営

①校区区長会(地区長)の運営

- ・民間開発団地や農業集落においては、少子高齢化による担い手不足で区の運営が難しく、区長や一部の役員に過重な負担がかかっている。中でも校区区長が当て職として主な団体の代表に充てられていることから負担も大きく、事業等の見直しの中で区長の当て職を可能な限り廃止する。
- ・校区区長会は従来どおり地域づくりの中心的役割を担う。
- ・各区においても自区の実情に応じ簡素で持続可能な運営を検討する。また校区共通の課題は協議会で取り組み各区の負担軽減に努める。

②地域を支える団体の見直し

(イ) 志手原っ子きょうだいづくり推進協議会

- ・地域づくり協議会に移行し現行組織は廃止する。(令和3年度)

(ロ) 志手原校区ふれあい活動推進協議会

- ・地域づくり協議会に移行し現行組織は廃止する。(令和2年度)
- ・三輪地区ふれあい活動推進協議会活動は従来通りとし、地域づくり協議会の中から役員を選出する。

(ハ) スポーツクラブ 21 志手原

- ・会計を含む運営事務は地域づくり協議会が支援し組織は存続する。

2. 地域づくり協議会組織の見直し

①地域づくり計画の実現に向けた具体の活動を進めるため「運営委員会」を設置する。

②運営委員会の基に、地域づくり計画をはじめ地域運営全般の実行組織として4つの「事業部会」を置く。

(事業部会の構成)

○ 第1事業部会 (誰もが安心して暮らせる地域づくり部会)

・活動分野：健康福祉、ふれあい、安全安心、防災等

・構成団体等：区長会、民生委員・児童委員、防犯協会、健康推進委員、消防団、自主防災組織、生活支援グループ等

○ 第2事業部会 (住民同士で創る協働の地域づくり部会)

・活動分野：多世代交流、若者支援、担い手づくり、協働等

・構成団体等：区長会、小中PTA、老人クラブ、スポーツクラブ21、青少協、地域活動支援グループ等

○ 第3事業部会 (魅力を生かした元気な地域づくり部会)

・活動分野：農業観光振興、地域おこし、特産品開発、環境等

・構成団体等：区長会、農業団体、環境保全隊、地域おこし協力グループ等

○ 第4事業部会 (収益事業検討部会)

・運営委員会より委員を選出

※運営委員会は、協議会役員、区長会、構成団体等で構成する。

※事業部会は、運営委員で構成し担当分野の活動を進めるための実行計画を立て、部会の構成団体と共同して事業を行う。

※地域全体の行事や催しは協議会事業とし、事業毎に実行委員会を設けて企画実行に当たる。実行委員は構成団体や住民から募る。

※構成団体においては組織の持続と活性化に向け、自主事業や運営内容について検討を進める。

※校区内事業所に対し地域の構成員として参加協力を要請する。

③事務局に事務局長(非常勤)及び事務局員(常勤)を配置する。事務局長は新たに設置する活動拠点施設長を兼ねる。併せて地域運営をコーディネートする顧問を置く。

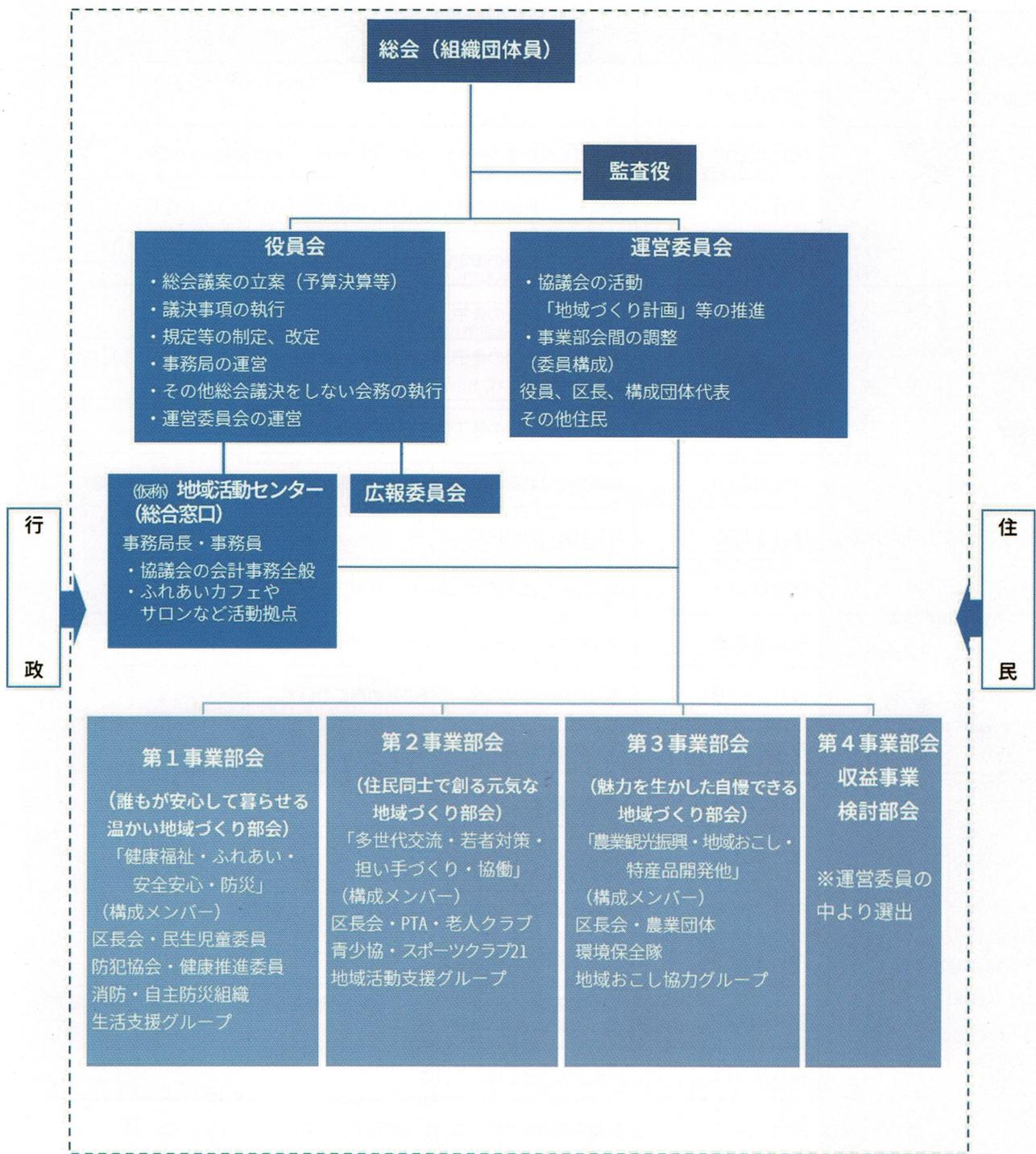
④広報活動の推進に向け「広報委員会」組織する。

⑤専門部会(企画部会・交流部会)を廃止する。

◆ 取り組みスケジュール

事業名	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年以降
●誰もが安心して暮らせる 温かい地域					
1. 生活弱者暮らしサポート	→				
2. やさしい地域交通の調査 研究		→			
3. 相談拠点づくり		→			
4. いきいき在宅支援	→				
5. いきいき百歳体操の普及	→				

◆ 志手原校区地域づくり協議会組織図



● 参考資料

1. 志手原校区地域づくり協議会構成団体

・校区地区長 (9地区)	
・民生委員児童委員、民生児童協力委員	・スポーツクラブ21 志手原
・健康推進委員	・志手原校区老人クラブ連絡協議会
・上野台中学校 PTA	・防犯協会三輪北支部
・志手原校園 PTA	・上野台中学青少年健全育成協議会
・生活支援ボランティアグループ「すけっと志手原」	

2. 地域づくり計画策定の流れ

	開催年月日	内 容
定期総会	H31.04.20	H30年度事業及び決算報告、H31年度事業計画案及び予算案について
役員会	R01.05.07	地域づくり計画の策定に向けて（計画骨子、策定委員会設置等）
	R01.07.01	地域づくり計画の策定に向けて（策定方法、スケジュール他）
	R02.03.26	地域づくり計画の策定に向けて（策定方法、スケジュール等）
企画部会	R01.05.27	地域づくり計画の骨子、基本目標等
	R01.06.07	地域づくり計画の骨子、基本目標等～住民アンケート等から見えるもの～
	R01.06.19	地域づくり計画の骨子素案、策定委員会委員等について
地域づくり計画策定委員会	R01.07.19	地域づくり計画の策定に向けて（骨子、スケジュール、分野別分科会等）
	R01.11.05	各分科会の取組状況について
	R02.03.11	地域づくり計画素案のまとめ（新型コロナウイルス予防のため中止）
策定委員会調整会議	R01.07.30	策定委員会及び分科会の役割、小規模座談会等について
	R01.12.18	各分科会の取組状況、今後の進め方について
	R02.02.17	各分科会計画素案の調整について
策定委員会 第1分科会 (全6回)	誰もが安心して暮らせる温かい地域	
	R01.08.06	今後のスケジュールについて
	R01.09.10	将来あってほしい姿、実現に向けての柱など基本的な方向について
	R01.10.19	小規模座談会の実施について
	R01.10.27	小規模座談会：話し合いテーマ 誰もが安心して暮らせる地域をめざして
	R01.11.17	計画素案のまとめについて
	R01.12.09	計画素案のまとめについて（前回のつづき）
策定委員会 第2分科会 (全7回)	住民同士で創る元気な地域	
	R01.08.22	具体的な検討テーマについて
	R01.09.03	住民に参加してもらえる組織や仕組み
	R01.10.04	住民同志で創る元気な地域づくり活動の柱、小規模座談会の開催
	R01.10.26	小規模座談会：話し合いテーマ 地域の担い手を育てるために
	R01.10.31	活動の柱について
	R01.11.19	地域づくり計画素案のまとめについて
R01.12.04	地域づくり計画素案のまとめについて（前回のつづき）	

策定委員会 第3分科会 (全8回)	魅力を生かした自慢できる地域	
	R01.08.06	現状把握について
	R01.08.30	地域の魅力を活かした自慢できる地域について
	R01.10.03	小規模座談会の実施について
	R01.10.19	小規模座談会：話し合いテーマ 自然を生かした交流事業について
	R01.11.19	地域づくり計画素案について
	R01.12.13	小規模座談会の実施について
	R02.01.17	小規模座談会：農業関係者との話し合い
	R02.02.03	地域づくり計画素案のまとめについて
策定委員会 第4分科会 (全8回)	みんなで進める活動のしくみ	
	R01.08.07	分科会スケジュール、地域運営、校区内の団体と事業について
	R01.09.06	事業や団体等の見直し、地域づくり協議会の運営など
	R01.10.18	小規模座談会の実施について
	R01.10.26	小規模座談会：話し合いテーマ 組織課題と地域づくり協議会への期待
	R01.11.15	小規模座談会で出た意見について
	R01.12.06	計画実現に向けた協議会組織など
	R02.01.10	計画実現に向けた協議会組織など（前回のつづき）
R02.01.22	地域づくり計画素案のまとめについて	
地域づくり研修会	R01.07.19	地域づくり計画と住民参加のまちづくり 講師：関西学院大学総合政策学部 清水陽子教授
	R01.09.27	視察研修：朝来市与布土地域自治協議会
	R02.01.25	持続可能な地域づくりを考える～みんなが主体的に参加する地域づくり～ 講師：朝来市市長公室総合政策課 馬袋真紀課長補佐

3. 地域づくり計画策定委員会委員名簿

(1) 地域づくり計画策定委員

委員名	所 属	備 考
小西 澄雄	校区区長会（志手原区長）	策定委員会代表・第3分科会
大前 正和	校区区長会（成谷区長）	第4分科会副代表
仲 重治	校区区長会（尼寺区長）	第1分科会
東部 貢	志手原校区ふれあい活動推進協議会	第2分科会
山門 健人	老人クラブ連絡協議会	第1分科会
杓谷 公江	スポーツクラブ21志手原	第3分科会
小前 聡	役員・防犯協会三輪北支部	第3分科会
村上 好春	上野台中学校青少年健全育成協議会	第2分科会
宮口 美幸	役員・民生委員・児童委員	第1分科会副代表
宇都 千恵美	役員・上野台中学校 PTA	第3分科会
岡村 誠治	志手原小幼 PTA	第2分科会副代表
長田 美佐江	生活支援グループすけっと志手原	第2分科会
今北 一郎	公募	第4分科会
西本 均	公募	第4分科会
小家 圭子	公募	第4分科会
植中 美香	公募	第1分科会
山内 雅弘	公募	第3分科会副代表
稲場 洋子	公募	第4分科会
田谷 俊彦	役員・企画部会	策定委員会副代表・第4分科会代表
福西 勝弘	役員・企画部会	第1分科会代表
中 則雄	役員・企画部会	第3分科会代表
堤 保治	役員・企画部会	第2分科会代表
谷口 信子	企画部会	第1分科会
西田 孝夫	役員	第2分科会

(2) オブザーバー参加

名 前	所 属	備 考
永井 向日葵	兵庫県立北摂三田高校2年	R01.07.19 ~ R2.03.31

(3) 協力者

名 前	所 属	備 考
古家 千彰	三田市協働推進課地域担当課長	H30.04.01 ~
足立 忠義	三田市協働推進課地域担当サポート職員	H30.05.01 ~ H31.03.31
辰巳 武人	三田市協働推進課地域担当サポート職員	H31.04.01 ~
畑 信成	三田市協働推進課地域担当サポート職員	H30.06.01 ~ R2.05.31
段 俊介	三田市協働推進課地域担当サポート職員	H30.06.01 ~ R2.05.31
中沢 賢哉	社会福祉協議会地域福祉支援室地域福祉支援員	H30.04.01 ~